

平成 29 年度第 6 回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」 「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：平成 30 年 3 月 20 日（火）午後 7 時 00 分～8 時 30 分

会場：墨田区役所 13 階 131 会議室

1 次 第

(1) 開会

(2) 報告事項

- ア 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」改訂（案）へのパブリック・コメント実施結果について
- イ 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」改訂について
- ウ 平成 30 年度スケジュール（案）について
- エ 保育士等の子どもの優先入所に係る取扱いについて
- オ 子ども主体の協同的な学びプロジェクト合同発表会結果報告について
- カ その他

2 配布資料

- 資料 1 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」改訂（案）へのパブリック・コメント実施結果について
- 資料 2 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」改訂
- 資料 3 平成 30 年度スケジュール（案）
- 資料 4 保育士等の子どもの優先入所に係る取扱いについて
- 資料 5 「子ども主体の協同的な学びプロジェクト合同発表会」結果報告

3 委員

(1) 出席委員（敬称略）

- 大豆生田 啓友（玉川大学大学院教育学研究科教授）
- 野原 健治（社会福祉法人興望館常務理事）
- 高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科教授）
- 長田 朋久（横川さくら保育園長）
- 西島 由美（にしじま小児科院長）
- 服部 榮（社会福祉法人雲柱社理事長）
- 押田 剛（主任児童委員）
- 木村 美恵子（曳舟小学校 P T A 会長）
- 内田 淳（青少年委員協議会委員）
- 根里 美佐（竪中地区青少年育成委員会委員長）
- 小菅 崇行（東京商工会議所墨田支部副会長）
- 宮村 柚衣（ちゃのま保育園代表）
- 田中 千春（公募）
- 横井 貴広（公募）
- 近藤 ゆき江（八広幼稚園長）
- 桂本 圭子（寺島保育園長）

(2) 欠席委員(敬称略)

- 岡田 真(江東学園幼稚園園長)
- 小林 恵子(両国子育てひろば施設長)
- 小川 政美(吾孺立花中学校PTA会長)
- 中村 信幸(連合墨田地区協議会議長)
- 佐藤 まり子(ムーミン保育室施設長)
- 賀川 祐二(NPO法人病児保育を作る会代表理事)
- 本多 美絵子(両国幼稚園副園長)
- 佐藤 達也(公募)
- 関 舞衣子(公募)
- 渡邊 圭三(東吾孺小学校長)
- 西村 均(豎川中学校長)

4 傍聴:3名

5 事務局

(1) 部課長出席者

石井 秀和(子ども・子育て支援部長)、後藤 隆宏(教育委員会事務局次長)、浮田 康宏(子育て支援課長)、高橋 義之(子育て政策課長)、金子 明(子ども施設課長)、村田 里美(子育て支援総合センター館長)

(2) 区職員

長尾、関根、坂田、高橋、益田

(3) コンサルタント

株式会社名豊 糸魚川、千葉

6 議事要旨

(1) 開会

会長	これより開催いたします。(委員出席状況と会議の成立、傍聴者の出席、記録用の写真撮影と録音の了承、以上を説明。)
----	---

(2) 報告事項

ア 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」改訂(案)へのパブリック・コメント実施結果について

イ 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」改訂について

事務局	(資料1及び2、説明。)
会長	前回会議での委員の皆様からの御意見を踏まえて、修正したものということです。ご質問ある方お願いします。 (質問者なし) では、次に進みます。

ウ 平成30年度スケジュール(案)について

事務局	(資料3、説明)
会長	何か質問などありますでしょうか。
委員	3回目の会議は11月ぐらいの方がいいような感じがします。
事務局	検討します。

委員	このニーズ調査の目的が、前回は計画改訂についてだったかもしれませんが、これは毎回実施しているものなのか、今年度はどんな目的で調査するのかを伺いたい。
事務局	ニーズ調査の目的についてですが、前回お示した「次世代育成支援行動計画 子ども・子育て支援事業計画」について、現行の計画は平成 27 年度から平成 31 年度の 5 か年計画です。次回の計画は平成 32 年度から平成 36 年度までの 5 か年計画で、平成 31 年度中に策定予定です。その基礎資料とするために平成 30 年度にニーズ調査を実施することになっています。

エ 保育士等の子どもの優先入所に係る取扱いについて

事務局	(資料 4、説明)
委員	直接関係ないのですが、学童保育の現場は同じような状況があります。保育士に限定してとのことでしょうか。
事務局	<p>学童の対応についてですが、学童でも同じような状況があるというところで、例えば保育士のお子さんが学童に入れないがためにという問題も生じてくることを承知しています。</p> <p>そのうえで、今回子ども施設課長から各区に調査をかけているとお話しましたが、私ども子育て政策課でもそういった学童クラブの対応について、多岐に亘って調査したところです。その結果として、そのような学童クラブで保育士の優先枠や調整数を上げるなどの対応を取っているところは無かったのが現状ですが、問題としてそこにあると思っていますので、今後保育士の子どもの保育所入所の考え方の整理、それと整合させた学童クラブの課題の整理と対応策の検討についても実施していきたいと考えています。</p>

オ 子ども主体の協同的な学びプロジェクト合同発表会結果報告について

事務局	(資料 5、説明)
委員	<p>子ども主体の協同的な学びのプロジェクトをどのようにするのかを、これから議論しなければいけないと思っていますが、計画そのものが 5 年間で考えられていますので、来年度はこれまでと同様に実施し、5 年目を迎える平成 31 年度にあたってどのように進めていくかを、来年度以降の乳幼児ワーキンググループで継続的に皆様の意見を頂戴しながら、考えていこうということです。</p> <p>この機会ですので、乳幼児ワーキンググループの委員以外の方からも、この場でご意見等伺えれば参考にしたいと思しますので、いろんな角度からの意見を頂戴できればと思います。例えば、プロジェクトを継続しながら検証も部分ごとに実施したらどうか、検証方法はどのようなかたちで今後 5 年間の積み上げがどのくらい広がったか、検証の方法等を伺えればと思います。</p> <p>これまで 3 年間実施して、幼稚園と保育園、公立と私立の垣根を越えて頑張ってきましたが、小学校につながっているかどうか分かりづらい。小学校に呼び掛けてはいますが、公開保育や発表会に小学校の先生や関係者が参加をしてくれない。そのような課題も抱えています。幼稚園や保育園でプロジェクトに取り組んでいる子たちが、その翌年小学校に上がっていくわけです。このような取組を知らない小学校 1 年生の先生たちが授業に入るといような、今の墨田区の現状をどうしていったらいいのかという意識を持っています。</p>
委員	<p>アンケートの 2 枚目の真ん中あたりに、「本日の発表を聞いて協同的な学びの捉え方に違いがあると思った。」とあるので、効果的なことができるのではないかと思います。</p> <p>また、毎回保育園側、幼稚園側の発表とアンケート調査だけで、公表やパネルディスカッ</p>

	<p>ションの内容は無かったように思うので、今回もし可能であれば是非入れていただければと思います。</p>
委員	<p>子ども・子育て会議がスタートして間もなくの時期に「量的対応だけでなく質的対応を考えていくべきだ」「両方相まって進める中身だ」という意識がありました。その具体化された一つが、この子ども主体の協同的な学びプロジェクトに発展したのだと思います。質的なものをどう議論するかは高度なことです。その「主体」という言葉から子供の主体性をどう発揮するのか、今の世の中の主流になっているわけです。その意味では良いきっかけとなりましたし、子どもの主体性をどのように育てていくべきなのか、子どもの主体とはどういうことなのかを、目から離さないのは非常に大事な視点だと思います。これは継続してやっていく必要があるのではないかと思います。それからこれを経験した園その後どうなったのかは、検証の一つになるのではないかと思います。</p>
委員	<p>何か具体的なご意見をいただくと、参考に進められるのですが。</p>
委員	<p>私が運営している園では、参加した職員が全員刺激を受けていました。このこともきっかけのひとつとなって、子どもの主体性を育む環境を構成し、発展させていきました。</p> <p>子どもの決定権を尊重することが書かれている文書があります。この中身は、子どもの権利条約です。特に子どもの参加権に子どもの主体的な決定権が非常に重要な働きをするわけで、そのような意味では学校と共通の土台を持っているので、この子どもへの理解が学校と福祉現場、保育園、幼稚園、そこがもう少し一緒に成れないものかと考えています。教育委員会事務局の方に、意見を伺えればと思います。</p>
事務局	<p>平成 29 年度に改訂した「すみだ幼保小中一貫教育推進計画」は、平成 30 年度からの 5 か年計画で実施いたします。その中には皆さんご承知のとおり、平成 30 年度から変わる幼稚園教育要領があり、幼児教育と小学校の接続がかなり強く言われていて、小学校のスタートカリキュラムの充実を謳っています。当然、未就学児と小学校の連携をこれまで以上にもっと取り組まなければならない意識の下に計画を策定し、墨田区での連携教育に即して、教員と子どもたちが交流しながらその接続をいかに滑らかにしていくかというところに着目しています。先ほど、小学校の教員の意識が乳幼児教育に対して弱いのではないかという指摘がありましたので、まずは教員の方に意識づけをして、「幼児期に育む 10 の力」を理解して、小学校に続けていく意識を持とうという動きを実施していきたいと思っています。</p> <p>また、様々な実践例が出てくると思うので、その積み重ねと具体的なケアを考えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>このような取組を発展させる一つのきっかけとして、小学校の先生が 1 日保育園・幼稚園体験みたいなものが、年に 1 回できないでしょうか。1 日だけ保育園や幼稚園で過ごしてみても、どんな生活をした子たちが小学校 1 年生になるのか、その現場を見る機会を作るといえるのでしょうか。</p>
事務局	<p>処々課題もありますが、例えば協同授業や出前授業を行き来し始めていますから、そのきっかけから教員の意識づけをやっていくのが一つの方法ではあるかと思います。教員が、小学校あるいは未就学児の教育について、もっと理解して入っていくのはあると思います。どこまで入っていけるのか、今後いろいろ事例を積み重ねなければなりません、意識的な方向として、そのとおりかと思いますが、具体的にどう事例を積み重ねられるか、どんな方法があるのか工夫がいるかだと思います。意識として皆持ち始めていると思います。</p>

委員	お子さんを初めて受け持った小学校の先生は、子どもが小学校に入ってくるまでの家庭を知りません。初めて子どもを受け持つことで、ある日突然に小学生になるのではないと分かったのではないかと思います。難しいとは思いますが、まずは来年度に協同的な学びをやるのですから、先生方是非参加してください。授業をするのではなくて何をしているのかを見てほしいのです。
事務局	何か PR を考えておきたいと思います。
委員	少しずつでも有機的に関わっていくようなになればと思います。公開保育も平日の午前中が主ですので、先生方の融通ができるような体制や参加への理解が得られるよう、是非ご検討いただければありがたいです。

カ その他

会長	皆さんから何かありますか。無いようでしたら、事務局からお願いします。
事務局	(会長の委員辞任のお知らせ)
会長	(会長からのごあいさつ)
事務局	委員の後任ですが、学識経験者として「協同的な学びプロジェクト」で御協力いただいています、和泉短期大学准教授の松山洋平先生に、次回の会議からご参加いただきたいと思っています。 また、会長の選任については、平成 31 年度の第 1 回子ども・子育て会議にて委員の方々による互選としたいと思っていますので、ご承知ください。よろしくお願いします。

(3) 閉会

事務局	次回の平成 31 年度第 1 回子ども・子育て会議ですが、開催日時はこの場では申し上げられませんが、改めて 4 月上旬に事務局で調整のうえ、通知いたしますのでよろしくお願いします。
-----	--

以上